

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームいきいき(モクレン)	評価実施年月日	H20年9月1日～9月30日
評価実施構成員氏名	大野由理枝、山腰寿恵子、安倍雅博、佐藤清美、宮下昌子、藤江並岐、櫻井めぐみ、中保和宏、村越舞子		
記録者氏名	大野 由理枝	記録年月日	平成20年9月30日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「喜怒哀楽をともにする、家族と生きる、人間としての尊厳を守りその人らしく生きる、安心した暮らし」というホーム独自の理念があり、スタッフが常に意識できるよ事務所やスタッフルーム、日誌に掲示しており、いつでも確認できるようになっている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎朝行われる申し送りの際に、理念を読み上げスタッフの意識を統一している。日常的なケアの場面や毎日のカンファレンスの時に介護スタッフに話をしている。毎日勤務終了時に入居者の一日の様子を管理者へ報告して。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>定期的に地域や家族に向けたお便りを発行し、ホームでの日常の様子を知っていただいたり、ホームでの行事に参加していただけるよう呼びかけたり、協力をお願いしている。また、地域の行事にも出来るだけ参加するようにしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>今年度も昨年同様「夏祭り」を開催し、入居者の家族や近隣の方たちにも参加・協力していただける事が出来た。また、管理者は町内会の話し合いにも参加している。</p>	○	<p>夏祭りを開催したが、気軽に立ち寄っていただけるまでには至っていない。今後も近隣の方が参加していただけるような行事を行い、日常的な付き合いが出来るように努めていきたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域ボランティアの受入れや、民謡、生け花教室、絵本の読み聞かせ、保育園児の来訪など、さまざまな交流に取り組んでいる。町内会の行事には、出来るだけ参加するようにしている。(回覧板で地域行事を知る事が出来る)</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>定期的に家族や地域の方たちと運営推進会議を開催し、利用者、市町村職員、地域の代表者に、提供しているサービスについて理解を求めている。その中で、地域密着型サービスとして地域の高齢者ケアの拠点となるように協力をお願いしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	○	全職員が周知にいたっていないので(新人職員も多いため)きちんと意義をつたえていく。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	○	回数的に開催されていないのもっと協力を得てサービスの向上をはかる。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	○	現在、この制度を進めている入居者がいることもあり、研修会があればどんどん参加していき、理解を深めていく。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者に不満がないか、意見がないかを何気ない会話の中からくみ取ったり、話を聞いたりしている。苦情があった場合には速やかにそれらを運営に反映させている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>ご家族来訪時、月初めのお便りで様子を報告している。また、普段からビデオや写真を写しており見えていただいている。金銭については、月初めに領収証と収支の報告をし確認していただいている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情用のボックスを設けたり、苦情担当者を置いたりして苦情等を言いやすいようにしている。苦情があった際には、カンファレンスを行い改善策を検討し、結果を報告するようにしている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>半年に1回の面談時や責任者会議・福祉部会議までに意見や提案を出してもらい、管理者・運営者へ持っていき反映させている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>柔軟な対応が出来るようスタッフを確保している。それでも足りない場合には管理者へ協力をお願いしている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>利用者への大きなダメージのある異動はなるべく行わないようにしている。離職者が出ないよう職員のサポートを行っているが、万が一出た場合には利用者へのサポートを職員がしっかりと行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>積極的に外部の研修会を促しスキルアップへの取り組みを行っている。また、内部では勉強委員会を立ち上げ必要に応じた勉強会を行ったり、外部から講師を招いた研修会も行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>交流ある管理者同士で話し合いそのグループホームへの研修が可能となり、スタッフ同士の交流の場となっている。又、その他の研修会に参加することが同業者との交流の機会になっている。</p>	<p>○ ネットワーク作り、勉強会等の活動も行っていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休憩室が1階にある為、なかなか休息をとろうとするスタッフがいない。ストレスについてはスタッフ同士で交流を深め話すことにより軽減している。運営者による工夫・環境作りにはあまり力がかはっていない。</p>	<p>○ 運営者によるストレスの軽減の為の工夫・環境作りを積極的に行ってもらえるよう働きかけていく。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>外部研修や他の施設の見学などの機会を多く持ったり、内部での勉強会を行い、向上心を持って働けるように努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所時にご家族に記入していただいたバックグラウンドシートを参考におこなっている。本人が困っていること・不安な事等・求めている事等を本人自身からよく聞く機会を作り、受け止め、希望と課題を明確にし、ケアプランを作成し了解していただいている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>来訪時にご家族と話しが出来る時間をとり、困っている事や求めている事が何かを把握し受け止める努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族来訪時に受けた相談事や入居者様の事例を毎日のカンファで話し合い、最良の支援をスタッフ一丸となって出来るように努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	何度でも見学していただき、ご本人やご家族の方が納得して入居できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の生活の中で、入居者さまに手伝ってもらえる事、出来ることを分担していただいている。その間に、ともに教えあったり、教えていただいたり、お互いが必要であるように接している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	連絡を密に取り、お互いの情報交換をしながら、ご本人に過ごしやすい環境を提供するようにしている。行事への参加やユニット内で発行している新聞で入居者様の様子を知らせるようにしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人とご家族の間に入り、ご家族の負担にならない程度に、ご本人の希望がかなえられるよう配慮している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	希望の場所に外出したり、日々の生活の中で話題を提供し、関心が薄れないように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日々の観察で関係を把握し、一人が孤立しないようにスタッフが間に入りスムーズに入居様に関わりあえるように、サポートしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約修了者はいないため、解答できないが、ずっと良いおつきあいをしていけたらよいと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の生活・会話の中で思いをくみ取り、今までの生活スタイルを崩さないようサポート努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	フェイスシートの活用とご家族からの情報を元に把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の変化を細かく記録に落とし、スタッフ間の情報交換を密にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人が一番望んでいる事を1・2番にあげ、家族 スタッフの思いを押し付けることなく本人本位の介護計画になるように努め、本人がより良く生活できるように努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	もっと地域包括との連携、協働を図っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p> <p>往診ドクターの意見を参考に、ご家族へ情報を提供し病院を決めていただいている。病院・家族・施設とのパイプ役になりアフターケアに努めている。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p> <p>週1回ごとに主治医に往診をしてもらい、カンファを行い日々の健康状態、精神状態、生活の様子が変わったことなどを報告している。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p> <p>週1回の往診以外でも、常に連絡を取れるようにしており、指示を頂いており、生活上の問題なども聞いて頂き健康・精神面でも支えていただいている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p> <p>入居者さんが入院した場合は、スタッフが見舞いに行き、本人に安心して過ごしてもらえるようにしている。又、早期退院に向け病院関係者と情報交換をしたり相談したりしている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p> <p>ご家族や、主治医の協力、バックアップ体制のもと、ターミナルケアを実践している。</p>	○	<p>看取りの時期などが考えられる場合何度もご家族と協議して決断をしている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p> <p>「できること、できないこと」を見極め、主治医とともにチームとして支援していき、今後の変化に備えて話し合っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住み替えがある場合は、事前に十分家族はもちろん関係者と話し合い 情報交換を行って、住み替えによるダメージを最小限に抑えられるよう努めようとしているが、住み替えた入居者はいない。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>敬う気持ちで接する事を忘れず、個人情報ユニット内での利用に限り、施設での管理を徹底している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご本人が理解しやすい言葉や表現を使い、決定や行動を焦らないように待つよう心がけている。決めかねる方にはアドバイスのなものでスタッフに頼り過ぎないように判断を促している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>出来るだけ希望に沿うように努力しているが、待っていただいたり、時にはできないときもある。</p>	○	<p>出来ない時には、そのままにしておかず、どうしてできないのかを伝えやすくにはできなくても希望に添えるよう努力をしている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>いきつけの美容院、理髪店へ行けるよう支援している。また、お化粧品などのオシャレや身だしなみについても、さりげなく促している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>個人の好みに合わせたメニューを提供しているようにしている。また、外食にも出来るだけ行ってユニット以外で食べる楽しみをあげていただくようにしている。食事の準備や片付けも一人一人のペースに合わせて、出来る範囲でしていただいている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	午後のおやつの時や、入浴後などに、ビールやワイン、おつまみを用意したりして日常的に楽しめるようにしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排便をスタッフに見せるように促し色や形、回数を記録し、気持ちよく排泄できるよう支援している。トイレ誘導にも、一人一人に声掛けも工夫している。汚染があった場合、清拭したり、シャワー浴したり、清潔を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者さんの希望にあわせ、時間帯や、曜日にとらわれず、入浴している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者さんの表情やしぐさで仮眠が必要か、スタッフが把握しているので、いつでも仮眠が出来るよう対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ドライブや好きなものを外食する援助を行っている。刺繍など個人の好きな事が出来るように促している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者さんと一緒に買い物へ行ったり、模擬喫茶を作りお金に触れる機会を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	入居者さんとユニットの買い物と一緒にいたり、施設の周りを散歩したり、常時出掛けられるようにしている。また、入居者さんの希望も聞き、外出支援をおこなっている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者さんの希望に合わせて、外食、花見など取り入れている。また、帰宅の要望があったとき、こちらから遊びに行くか、ご家族に遊びに来てもらったりしている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に合わせて、電話や手紙、自由に対応している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居者さんのご友人の方でも、自由に訪問してもらえるように、いつでも開放している。ご家族以外の面会者については、笑顔で対応し、気軽に面会に来てほしいことも伝えている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をするような方が現在のユニット利用者にはいない。又、禁止の対象となる身体拘束については全ての職員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室の施錠は個人に任せている。また、日中は、玄関の鍵はかけず、自由に出入りが出来る様にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	一人で行動する方については、スタッフ同士が声を掛け合い様子を見守りに行きどこにいるか、何をしているのか、スタッフ全員が把握できるように努めている。夜間帯は時間を決め、居室を静かに訪室し良眠されているか確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物は夜間帯のみ保管場所を決めている。日中刃物は出しっぱなしにはせず、すぐに引き出しに仕舞っている。洗剤などは置き場所は決まっているが、誤飲の危険もある利用者が今のところいないので全てを保管庫に仕舞ってはいない。今後、誤飲の危険性が高くなった場合にはすぐに保管場所について話し合いを設ける。	○	物品庫・洗濯室がカギがかかるので必要に応じて保管場所にしていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人の状態に応じた事故防止に取り組み、カンファレンスで話し合っているが、リスクマネジメントについての勉強会は最近に行っていない。	○	窒息を起こす危険のある入居者様の為に掃除機に装着する器具を備えた。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全ての職員が救命講習を受けれるようにシフトを組んでいる。	○	突発的な急変などに対応できるよう、また余裕をもてるようにカンファレンスや、勉強会でシュミレーションをしていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を行い入居者が安全に避難できるように対応を話し合っている。災害時の日勤者の役割分担を日誌に記入し申し送りで見直し確認している。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	体調不良時や、年齢によるADL低下についての起こりえるリスクについて、その都度ご家族やキーパーソンの方に説明し対応策についても相談している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者の特変には、直ちに主治医に連絡できる体制をとっている。また、責任者、管理者への連絡も出来ている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬時に最後まで飲めているか目で確認し、上手に飲めない方には薬杯を使用し飲みやすくしている。処方された薬の目的、成分や副作用などについて担当医とカンファで確認し相談し、全スタッフが把握している。また、すぐに確認できるように主な薬の名称、成分、目的を記入してあるファイルを常にスタッフの目に付く場所に保管し、目を通すようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分補給や運動を促している。食事面では、食物繊維の多い副食を食べていただき工夫している。それでも改善が見られない場合、医師の指示の下、下剤を服薬していただいている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後ではないが起床時と入床時には口腔ケアを行っている。中には拒否される方もいるので、うがいだけでもしていただくように言葉をかけている。	○	毎食後に声をかけるようにし、口腔ケアが難しい時は水やお茶などの水分を口に含んでいただき食物の残が口の中に残らないように配慮していく
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	自主的に摂取できない方には好みの飲み物を用意したりユニット内だけでなく場所を変えたり、全スタッフが協力して支援し記録に残すようにしている。また、水分の代わりにゼリー果物などもつねにストックしてある。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	トイレ、外出後に手洗いを励行している。共用部の手すりやトイレや掃除の時にオスバンやハイターの薄め液で消毒している。インフルエンザについてはスタッフ入居者様共に、予防接種をしている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日使用するまな板や包丁など、調理器具は夜間消毒している。また、使用時にはアルコール消毒のスプレーを使い、衛生管理に努めている。食材の購入も食品回転の良い店を選び購入するようにしている。冷蔵庫内の清掃、整理整頓に気を配っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> <p>目印になるような手作りの看板を設置し親しみやすい様子を演出し、季節の花を植え玄関アプローチを目でも楽しめるようにしている。冬は雪だるまや蠟燭、イルミネーションを使用し季節にあった雰囲気を楽しんでもらっている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>童謡や民謡、好きなビデオを楽しんでもらったり、楽器を演奏したり個人に合わせてつづ、皆が楽しめるようにしている。室内の装飾には季節や行事にあわせた飾りや写真などを飾って親しみやすさや楽しさを演出している。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>リビング、小上がり、食堂、スタッフルームなど、自由に出入りし個人の好きなように過ごして頂いている。また、ローカにもソファや、椅子を設置し休んでいただくようにしている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>以前から使用していた家具や使いやすいなじみのものを用意していただき入居者様が安心して過ごせるような居室にしている。又、不要なものなどは持ち帰ってもらったり、落ち着ける空間を作るようにしている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>日中は出来るだけ換気するようにし、居室を密閉状態にしないようにしている。どうしても臭いのある居室には香料を設置している。又、居室の掃除も多めに行うようにしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> <p>利用者の身体状況に合わせ、介助方法を、カンファで話し合い、安全、安心して生活ができるよう取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>日々、変化していく一人一人の様子を毎日のカンファで対応を考え今、その人に何が 必要か個人の精神、体調に合ったケアが出来るように努めている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏場、外回りを散歩したり、歩行リハビリの目安として活用している。また、ベンチで 日光浴をしたり、畑で農作物を作り、収穫を楽しんだりしている。冬場において、イル ミネーションを設置し、目で楽しめるようにしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目				
項目	取り組みの成果			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない	①	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	①	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	②	支援の内容によっては、嫌な顔をする時がある。(リハビリや全員での外出支援で自分の行きたくない所に行く時など。)
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない	②	家族来訪時には、よく話を聞くようにはしているが、なかなか来訪されない家族もいて信頼関係が出来ているかは、難しいのでもっと家族との話し合いがもてるように努力していく。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	③	地域の方たちが毎日のように訪ねてくれるような取り組みが行われていない。町内会などのイベントにもっと参加してたずねてもらえるような努力をしていく。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>②</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>①</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>①</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>①</p>

入居者さんの残存能力をできるだけいかし、入居者さんがお客さんになってしまわないよう、自分で出来る事は自分でおこなってもらい、出来ない事はスタッフと行っていくようにしている。ホーム内だけの生活になってしまわないように外出支援にも、力をいれている。